

会派 くらよし創生
議員 米田 勝彦
議員 佐々木 敬敏

平成30年1月29日(月) 14:00~15:30

- 公益財団法人北九州産業学術推進機構 ロボット技術センター
福岡県北九州市若松区ひびきの北1番103

視察目的

- ロボット産業の振興について 公益財団法人北九州産業学術推進機構

視察経過

- 最初に、市のロボット産業担当の方から北九州市新成長戦略の概要を説明して頂き、その後ロボット技術センター長から市の成長戦略に呼応して取組んでおられる事業所に対するロボット導入支援事業について、説明を受けました。



視察感想

- 北九州市は、平成25年3月に「北九州市新成長戦略」を策定され、5つの方向性と18のリーディングプロジェクトを掲げ、その後、新たな雇用の創出を促すため平成28年3月に改定して、平成32年度までを計画期間として、取組んでおられます。
- 期間内の成果目標は、・市内総生産4兆円
・市民所得は政令市で中位・新たな雇用創出を2万人、としています。
- 目標達成のため、国の成長戦略の一つでありますロボット産業の振興に取り組んでおられます。
- 倉吉市も、規模の違いはあるにしても北九州市のように具体的な成果目標を設定し、ロボット等、AI(人工知能)産業を振興して地方創生を図る必要がある、と実感しました。



産業用ロボット導入支援センター



平成30年1月30日(火) 9:30~11:00

○ 田川市役所

福岡県田川市中央町1番1号

○ おしごとテラスkatete(かてて)

福岡県田川市本町8番9号

視察目的

■ ふるさとテレワークについて

* 在宅勤務

視察経過

- 田川市は、北部の筑豊に位置し、その昔、「炭坑節」で知られた炭坑のまちで、一時は10万人を超えた人口も、閉山後は減少し、現在は約、人口48,000、予算280億円、と、倉吉と変わらない規模のまちであることの説明を受け、その後、田川伊田駅から徒歩1分にあるアーケード通りに案内して頂きました。其処には、「おしごとテラスkatete」というテレワークを支援する事業所があり、担当の方から説明を受けました。

視察感想

- テレワークとは、定時に会社に出社せず、情報通信技術(ICT)、つまりパソコン・FAXを活用して好きな時刻、好きな場所で仕事をすることです。
- 此処は、都市部や県外からの仕事を受けて、その業務を登録会員に配分しています。
- 会員は、データ処理、デザイン、文章作成、ホームページ作成、など自分の得意分野を予めセンターに登録しておきます。
- 田川市は、この新しい取り組みに対して補助金などの予算措置は取っていない、とのことでした。
- 田川市の、地域を何とか活性化したい、という決意に、敬意を表したいと思います。
- 地域の活性化は、汗と、知恵と、熱意、だと実感しました。

田川市役所



立て看板左、おしごとテラスkatete
午前10時頃、アーケード通りの様子



おしごとテラスkatete(かてて)の前



奥の部屋でテレワーク者が工作中



平成30年1月31日(水) 9:30~11:00

○ 佐賀県農業試験研究センター

佐賀県佐賀市川副町南里1088

視察目的

- 農業のIT化について

佐賀県農業試験研究センター

視察経過

- 県及びセンターの方から、佐賀県の農業の現状の説明を受け、次に平成28年から取り組んでいるICT(情報通信技術)等の利用による土地利用型作物の省力化技術の開発と実証について説明を受けました。
- 事務所で説明を受けた後、センター敷地内の圃場に出かけ、ドローン活用方法を見学しました。



ドローン活用の実証
*センターの敷地内

視察感想

- 農業を省力化する方法として3つ挙げておられました。①新栽培技術、②ICT ③ロボット、です。
- これらによって期待される効果は、主に労働時間の削減です。例えば、水稲では50%、玉ねぎは25%の時間削減です。
- 説明を受け、少子高齢化そして人口減少という時代環境の中で、農業を発展させるには、すべての面において省力化が必要であり、その手段の一つとしてICT(情報通信技術)の活用が重要だと、認識しました。



プログラミングされたコースを
自動で飛行し、自動で着陸する。

* 別途報告

- 昨年、鳥取県議会議員5人、視察に来られたとのこと。
- 現在、佐賀県庁はテレワーク制度(在宅勤務)を取り入れておられるとのこと。理由は前知事が総務省出身で制度の推進者だったからとのこと。

